

## 原子力リスク研究センター（NRRC） 第 8 回 原子力経営責任者会議 議事録

1. 日 時：2017 年 6 月 9 日（金）09:30～12:00

2. 場 所：電力中央研究所（大手町本部）役員大会議室

3. 出席者：

主査：アポストラキス（NRRC）

委員：河田（北海道電力；阪井代理）、渡部（東北電力）、姉川（東京電力 HD）、倉田（中部電力）、上野（北陸電力；西野代理）、森中（関西電力；豊松代理）、林（中国電力；古林代理）、玉川（四国電力）、中村（九州電力）、市村（日本原電）、武井（日本原燃）、浦島（電源開発）、横尾、尾本（NRRC）

オブザーバー：尾野（電事連）、中野（原安進）

NRRC 幹部：メザーブ、高橋、座間、酒井、植田、山本

幹事：示野（NRRC）

4. 議 事：

### (1) 2016 年度 研究成果について

NRRC より、2016 年度研究成果について説明した。

（委員からの主なご意見）

- ・液状化について従来カバーされていない点として、一般の建築に比べて、原子力の地震動想定が大きくなっていることがある。また、深部に及ぶ液状化の調査・実験が重要だ。

### (2) リスク情報を活用した意思決定プロセスの導入戦略骨子案について

NRRC より、リスク情報を活用した意思決定プロセスの導入戦略骨子案について報告した。

### (3) NRRC 活動状況

○NRRC より、電中研研究報告会 2017、技術諮問委員会（TAC）、リスク情報を活用した意思決定に関するワークショップの開催結果などについて紹介した。

### (4) アポストラキス所長との意見交換

（所長の主な発言）

- ・日本に限らず世界的に見ても、決定論的な仕組みには欠陥がなく、PRA を使うのであればその有用性を証明すべきだ、と考える人がかなりいる。しかし実際には、決定論と確率論のいずれのアプローチも完璧ではない。これまで PRA に取り組んでくる中で、決定論的なアプローチの多くの欠陥が明らかになってきた。そこで両者を組み合

わせて判断するリスクインフォームドアプローチということを提唱してきた。

- 新検査制度の導入は、規制と事業者がリスクを共通言語としてコミュニケーションするきっかけになる。これはリスク情報活用を他の分野でも適用していくための重要な一歩になると思う。

以 上